

つながりが増える、安心が広がるキャンパスへ —「学長のおごり自販機」—

昨年12月3日に「学長のおごり自販機」による学内ウェルビーイング向上大作戦がスタートしました。大勢の学生、教職員に集まっていただき、「おごり初めイベント」を開催した様子は多くのメディアに取り上げていただき、Yahooニュースのトップページにも掲載されましたので、ご存知の方もたくさんいるのではないのでしょうか。

受田学長自らが、みんなで「いい大学」をつくりたい、そのためにも学生や教職員の声を聴き、思いを受け止め、コミュニケーションを図りたい。その学長の思いが込められた大作戦です。

学長コインを受け取り、メッセージを動画に残し、「校友会ラウンジ」でドリンクを飲みながら、色々な人との会話を楽しんで下さい。受田学長からのメッセージも、学生会館1階に設置している、広報用のサイネージで届けられます。ぜひ足を止め、ご覧いただければと思います。

つながりが増え、多様な関係が生まれると、幸福度は高まると言われています。その「つながり」をより豊かにするには、互いの違いを知り、尊重するまなざしが欠かせません。ジェンダー平等の意識を高め、LGBTを含む多様なあり方への理解を深め、誰もが安心して参加できる場にしていきましょう。みんなでつながり、お互い様で相手を思いやり、「ありがとう」を伝えられる大学になると、必ず「いい大学」になっていくと確信をしています。「学長、ゴチになります!」



高知大学 理事
(財務・地域連携・広報・ウェルビーイング担当)
堀見 和道

男性育休取得を促進します!

職員が、仕事と子育て・介護を両立させることができ、働きやすいウェルビーイング職場環境をつくることによって、その能力を十分に発揮できるようにするため、高知大学では、次世代育成支援対策推進法・行動計画(第5期)を策定しました。

1. 計画期間：令和7年4月1日～令和12年3月31日

2. 内容 **目標1 仕事と子育て・介護を両立させるための支援を行う。**

- 取組内容**
- 令和7年度～：休日の入試業務、オープンキャンパス等の全学行事にあたり、一時託児を行う。
 - 令和7年度～：研究支援員制度・研究者の復職支援を実施する。
 - 令和7年度～：両立コンシェルジュデスクによる相談受付、諸制度利用の広報、関連セミナー等を行う。

目標2 業務の効率化と超過勤務縮減に向けた取組を行う。

- 取組内容**
- 令和7年度～：意識啓発や業務改善に関する研修を実施する。
 - 令和7年度～：会議等を通じて、超過勤務縮減、有給休暇の取得、業務のDX化推進について周知する。

目標3 男性の育児休業取得率を35%以上とする。

- 取組内容**
- 令和7年度～：男性も育児・介護等に参画しやすい職場環境を目指した、意識啓発や情報提供を行う。
 - 令和7年度～：ロールモデルの紹介等を行う。
 - 令和7年度～：男性育休取得部署へのインセンティブや、オプトアウトなどを検討する。

目標4 ウェルビーイング職場環境を目指す。

- 取組内容**
- 令和7年度～：組織横断的な交流や対話を増やすための取組を行う。

■ 受田学長メッセージ

「高知大学は、男性育休にYesといます。」

男性育児休業はもはや“特別なこと”ではありません。わたしは、トップの立場からその重要性を明確に示し、職員が育児と仕事を自然に両立できる職場づくりを進めます。

高知大学長
受田 浩之



少子高齢化が進む中、高知県も男性育休取得を推進しています。高知大学は、令和7年12月1日に高知県より「高知県ワークライフバランス推進認証企業」として認定され、また「こうち男性育休推進企業」としても登録されました。男性の育休取得は徐々に進んでいますが、男女問わず、教職員がより一層育児と仕事の両立ができる職場環境づくりを目指していきます。



令和7年度 ウェルビーイング等の講演会

「ウェルビーイングを考える：UNRWA・ガザ地区の現状報告を踏まえて2」

令和7年度ウェルビーイング講演会①

「ウェルビーイングを考える：UNRWA・ガザ地区の現状報告を踏まえて2」

令和7年7月24日(木)
14時50分～16時20分

Zoom 開催(参加費無料)
以下QRコードから
事前申込みをお願いいたします

SEITA AKIHIRO
講師 清田 明宏 氏

1961年生まれ、高知医科大学(現、高知大学医学部)卒業、結核予防会・結核研究所に勤務。国際協力機構(JICA)でエイズ感染対策プロジェクトに携わり、その後、世界保健機関(WHO)に入り、中近東の結核対策、三大感染症の責任者となる。2010年より国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の保健局長に就任。3,100人の保健担当スタッフをまとめる。2015年第18回文化庁社会参加型国際協力推進賞を受賞。

※Zoom 参加申込は必ず事前です。

お申し込み後、登録完了メールが自動送信されます。開催日の2日前までに、ご登録いただいたメールアドレスにZoom 開催、Web アドレスの通知がまいりますので、入力にお間違いのないようお申し込みください。

※注)お申し込み後に登録メールが届かない場合は、登録メールアドレスをご確認の上、再度お申込みください。

お問い合わせ先：男女共同参画推進室(担当：廣瀬・吉村)
Eメール：sankaku@kochi-u.ac.jp

7月24日(木)、ウェルビーイング講演会「ウェルビーイングを考える：UNRWA・ガザ地区の現状報告を踏まえて2」(オンライン)を開催しました。学生、教職員、一般の方を含む173名が参加しました(医学部の授業でもオンデマンド視聴あり)。講師は国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)保健局長の清田明宏先生(医師)でした。昨年のオンライン講演会に引き続き、今年はガザにおける破壊や子どもの栄養失調の深刻化が語られました。

一方で、「今日は空爆の恐れがないから」と一張羅で保健センターへポリオワクチンを受けに向かう人々の姿が紹介され、厳しい状況下でも続く日常の営みが印象的でした。

学生からのキャリアに関する質問に対し、清田先生は、横須賀基地病院でのインターン、結核予防会での勤務、JICA事業で訪れたイエメンでの経験を振り返られ、複雑な現場では「最も重要なことを見極める力」が欠かせないと強調されました。

最後に清田先生は、「希望は人々の心に宿り、社会が健康を取り戻せばウェルビーイングも回復する。だからこそ、社会の健康を取り戻す活動を続けていきたい」と述べられ、参加者に深い感銘を与えました。



女性活躍セミナー

「世界はどのように変化しているのか、その中でどうやってウェルビーイング経営を実現するか」

参加無料!

世界はどのように変化しているのか
その中でどうやって
ウェルビーイング経営を
実現するか

高知でFaceToFaceを実践する高知銀行の例

令和7年11月17日(月)

急速に変化する社会や働き方の中で、企業が顧客や従業員のウェルビーイングをどう実現するか問われています。本講演では、高知ならではのFace to Faceによる高知銀行の実践例を紹介します。

時間 14:50 - 16:20

会場 高知大学 朝倉キャンパス 共通教育棟 222番教室

対象 高知大学学生・教職員

講師 河合 祐子 氏
(高知銀行 代表取締役頭取)

1987年 デジタル銀行JFモルガン銀行グループ入り
2001年 東洋証券株式会社入社
2003年 日本銀行入り
2009年 Japan Digital Design 株式会社入社
2023年 株式会社高知銀行代表取締役頭取
2025年 株式会社高知銀行代表取締役頭取

お問い合わせはこちら
088-888-8022 sankaku@kochi-u.ac.jp

11月17日(月)、株式会社高知銀行代表取締役頭取・河合祐子氏にご講演頂きました。当日は、「しあわせ研究入門」を履修する学生・教職員を中心に220名が参加しました。河合頭取が世界50か国以上を見聞してこられた経験や、ご自身が仕事や生活で感じたウェルビーイングについてお話しされました。

続いて、世界情勢や経済環境が目まぐるしく変化する中で、地域の金融機関が果たすべき役割や、高知銀行が掲げる「Face to Face」の理念がウェルビーイング経営へとどのように結びつくのかについて、数多くの具体例を交えながらご紹介いただきました。

また、働き方の多様化やテクノロジーの進展が加速する現代において、「デザイン思考」「顧客起点のマーケットイン」「従業員と顧客のウェルビーイング」「リアル・デジタルのFace to Face」の重要性、組織や個人が大切にすべき「軸」についても深い示唆がありました。

今回の講演は、最前線で活躍するリーダーの「生の声」に触れる貴重な機会となり、参加者の視野を大きく広げるものとなりました。質疑応答では学生からも積極的な質問が寄せられ、河合頭取はそれぞれの問いに丁寧に答えてくださり、会場全体が学びの熱気に包まれました。

本学では今後も、地域と連携し、学生が多様な価値観や実践知に触れられる学びの場を積極的に提供してまいります。



令和7年度 ロールモデル講演会

ロールモデル講演会① 「興味・関心があることに、まずは一歩踏み出す勇気を！」

令和7年度 ロールモデル講演会
興味・関心があることに、
まずは一歩踏み出す勇気を！

多次所属の経歴を持つ、次世代のキャリア支援の一環として、ロールモデル講演会を開催いたします。
其の目的は専攻外の活動が、国際看護職を志す方から、語学活動に加え、グローバルなコミュニケーションスキルを培った地域連携イベントや卒業生に寄り添った卒業生による「一歩踏み出す勇気」についてお話しいたします。

日時 令和7年5月19日(月) 14:50~16:20
会場 共通教育棟 212番教室

講師 藤井千江美 氏
高知大学看護学 国際およびフランス、南アフリカで旅行会社勤務。引継ぎ業務の中心として、本学で国際看護職研修生として、全学で国際看護職研修生。その中で高知大学に在学中にグローバルなコミュニケーションスキルを培った地域連携イベントや卒業生に寄り添った卒業生による「一歩踏み出す勇気」についてお話しいたします。

対象 本学の学生、教職員、一般

5月19日(月)、令和7年度「ロールモデル講演会①」を開催し、学生・教職員あわせて145名が参加しました。

講師には、藤井千江美先生をお招きしました。事前に50件を超える質問が寄せられ、講演ではそれらに触れながら、藤井先生の多彩なキャリアが語られました。

旅行会社での勤務を経てアフリカ医療への思いが芽生え、40歳で看護師を志された先生は、大学病院勤務、イギリスでの熱帯医学留学、JICAシニア海外ボランティアとしてのボツワナでのエイズ対策、さらにシエラレオネでの保健行政支援など、数々の挑戦を重ねてこられました。華やかに見える経歴の裏側にある困難についても率直にお話いただきました。

現地で住民と協働し、健康で豊かな生活を築く方法を模索され、モリンガ(植物)の普及などの取り組みも継続されています。

なかでも「村の診療所を走り回る鶏」のエピソードは印象的で、相手の文化や背景に寄り添い、当事者自身の気づきが行動変容を引き出すという重要な点を示唆されました。この姿勢は、男女共同参画の推進にも通じるものがあり、多くの学びとなりました。



ロールモデル講演会② ロールモデル対談「人生!ときめき☆シブリコラージュ:キャリアジャングルジムの登り方」

人生!ときめき☆シブリコラージュ
キャリアジャングルジムの登り方

日時 令和7年7月22日(火) 14時50分~16時20分
場所 高知大学朝倉キャンパス共通教育棟221番教室
対象 本学の学生、教職員(参加費無料、事前申込不要)
講師 安光ラヴェル 香保子 (高知大学特任助教・URA)
慶應義塾大学経済学部卒。SONY株式会社・SONYソニーエレクトロニクスを経て、2010年より高知大学朝倉キャンパスに勤務。総合キャリアパスに勤務。オーストラリア国立大学で国際関係学専攻。オーストラリア・ニューヨーク・パリで大学院で経営学修士(修士)を取得。現在は高知大学で自身の研究に加えて、研究支援を担う職としても活動中。

モデレーター 高知大学安全・安心推進課 廣瀬孝一

7月22日(火)、講師に高知大学特任助教・URAの安光ラヴェル香保子先生をお招きし、越境経験やキャリア形成について、廣瀬室長との対談形式でお話を伺いました。

安光先生のユニークなお名前由来にはじまり、インドネシア日本入学校での学び、慶應義塾大学での経済学専攻、ソニー入社当時の女性の働き方などが紹介されました。また、休職制度を利用したオーストラリア国立大学院への留学や、国際結婚、育児の経験などにも触れられました。

対談では、越境への挑戦は一度で成功するとは限らず、何度もアプローチを試みる事が重要であり、まず一歩踏み出すことで「越境者の視点」が得られること、マイノリティ経験が視野の広がりにつながる事が語られました。

さらに、偶然の出会いや機会を組み合わせながら、スウェーデン・イエテボリ大学で経営学修士を取得し、高知県での地域貢献を経て博士号(医学)を取得、現在の研究活動へ至る歩みが紹介されました。研究計画の立案、共同研究のマネジメント、広報、サイエンスコミュニケーションなどには、企業勤務で培ったスキルが大いに活かされていることも示されました。最後に先生は、「さまざまな経験は振り返って初めて意味が見えることもあるが、越境の一步に無駄はない」と述べ、「恐れずにチャレンジしてほしい」と学生へ力強いメッセージを送られました。



ロールモデル講演会③ 「メッシュワーク的に編むキャリアIIーアカデミア×ビジネス:他者理解から拓く新しい社会ー」

令和7年度 ロールモデル講演会
メッシュワーク的に編むキャリアII
アカデミア×ビジネス:他者理解から拓く新しい社会

日時 令和7年12月1日(月) 14時50分~16時20分
場所 高知大学朝倉キャンパス共通教育棟222番教室
対象 本学の学生、教職員
講師 比嘉夏子さん(合同会社メッシュワーク共同代表)

博士(人間工学) 京都大学 人間工学
報字者、合同会社メッシュワーク 共同代表、山梨県立大学特任准教授
専攻に「他者」を取り組むインバウンドマーケティングに高度経済学者から「現場」に「他者」を「テクノロジー」でつなぐこと

主催 合同会社メッシュワーク
高知大学女子同窓会 しまわせぶたん

印刷 夏子、自研
〒783-8502 高知朝倉二丁目5番1号
合同会社メッシュワーク 総合研究棟 303 | | : sanku@meshwork.ac.jp

12月1日(月)、人類学者であり合同会社メッシュワーク共同代表の比嘉夏子先生を講師に迎え第3回ロールモデル講演会を行いました。学部生から大学院生、教職員まで計233名が参加しました。比嘉先生は、研究者としての経験、大学での教育・研究、そして「メッシュワーク」での実践をつなぎながら、「キャリアは一本化するのではなく、編むように構築できる」こと、また、UR(住宅都市整備公社)での住み込みフィールドワークを例に、住まい・ごみ置き場・日常のふるまいなど生活文化を「生活しながら観察する」方法、その気づきをどのように「情報化」するかを紹介されました。

参加者からは、「気づきは能動的な関わりから生まれると実感した」「制度では捉えきれない“現場の手ざわり”が印象的」「研究やキャリアを見直す契機になった」「ウェルビーイングは関係性の質から育まれるとの指摘に共感」など、多くの反響が寄せられました。

学生から教職員まで幅広い層が質問し、研究方法、キャリア形成、現場観察の姿勢など、多岐にわたる議論が交わされました。



男女共同参画推進室では、学生の方々にも男女共同参画について考えてもらうために毎年集中授業を開講しています。学内の様々な分野の先生方(家族社会学、社会学、地域研究、文化人類学等)による多様な視点からの講義です。また性別に問われずに「自分らしく生きる」というテーマも含め、学外の講師の方々にもご登壇いただきました。

日程		講義	担当講師
9/16(火)	2限	ガイダンス：男女共同参画社会とは何か	廣瀬 淳一 先生(男女共同参画推進室)
	3限	家庭から見た男女共同参画	森田 美佐 先生(教育学部)
	4限	地域や労働分野における男女共同参画	佐藤 洋子 先生(地域協働学部)
9/17(水)	2限	育児の視点からの男女共同参画	岩佐 和幸 先生(人文社会科学部)
	3限	SOGIの多様性について	レインボー高知 代表 宮田 真 氏
	4限	デートDV：知っておきたいこと!	こうち男女共同参画センター「ソール」 楠瀬 由利子 氏、中本 珠希 氏
9/18(木)	2限	キャリアセミナー	児美川 孝一郎 先生(法政大学キャリアデザイン学部教授)
	3・4限	ロールモデル講演	植田 康郎 氏(高知銀行後免支店) 楠瀬 まどか 氏(アルファドライブ高知/清水屋旅館4代目女将)
9/19(金)	2限	海外におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状	宮地 歌織先生(男女共同参画推進室)
	3・4限	SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：性と生殖に関する健康と権利)について考える	公益財団法人ジョイセフ 国内事業グループ 關 まり子 氏
9/20(土)	3・4・5限	過労死防止に関する講演会	長井 偉訓 先生(愛媛大学名誉教授)、久保 直純 氏(「四国過労死等を考える家族の会」代表)、高橋 幸美 氏(過労死ご遺族)

キャリアセミナーおよびロールモデル講演会

9月18日(木)は、法政大学キャリアデザイン学部教授の児美川孝一郎先生をお招きし、「**キャリアデザインの視点から卒業後の進路を考える**」をテーマに特別セミナーを実施しました。2限の講義では、キャリアは計画どおりに一直線に進むものではなく、偶然や環境の変化を取り込みながら、自らデザインしていくものであるという考え方が示されました。ドリフト・デザイン(ときに漂いながら移動する)、計画的偶発性(ビジョンを持ちつつ偶然の機会を活かす)、パラレル・キャリア(複数の仕事を並行する)といった概念を通して、将来に対して柔軟に構え、挑戦と選択を繰り返してよいというメッセージが学生に伝えられました。

3限・4限には、高知県内のロールモデルとして、卒業生および若手社会人2名にご登壇いただきました。植田康郎氏(高知大学教育学部卒/高知銀行)は、入行後に世界一周のため一度退職し、復職制度を利用して再就職した経験や、育児休業を取得した経験を紹介され、「家族」を最も大切にする価値観と、制度を活用する意義についてお話しされました。楠瀬まどかさん(アルファドライブ高知/清水屋旅館 4代目女将)は、多様な転機や社外での挑戦、さらには解雇という経験も含めて語り、偶然の出会いと自らの行動がキャリアの可能性を広げてきたことを、実体験を通して示されました。この講義は、単なる進路情報の提供にとどまらず、自分自身の軸を持ち、不確実性を前向きに捉えながら「自分らしいキャリア」を設計する視点を育む機会となりました。



児美川 孝一郎 先生
(法政大学キャリアデザイン学部教授)



植田 康郎 氏
(高知銀行後免支店)



楠瀬 まどか 氏
(アルファドライブ高知/清水屋旅館4代目女将)

「男女共同参画社会を考える」

リプロダクティブ・ヘルスから考える男女共同参画

9月19日(金)は、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)(以下、SRHR)について国内外の事例を学びました。まずは男女共同参画推進室の特任講師・宮地歌織先生より、「海外におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの現状」というテーマで思春期保健の事例が紹介されました。

次に国際NGOジョイセフ国内事業グループの關まり子氏による講義「SRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ:性と生殖に関する健康と権利)について考える」が行われました。ジョイセフは海外でのプロジェクトを多く実施していますが、日本でのSRHRの遅れから、日本の若者に対する情報提供やアドボカシー活動なども行っています。

講義では、ルッキズムなどの課題、そして「I.LADY(私らしく生きる)」(右写真参照)のカードを用いて、グループワークを行い、男女ともに、月経や避妊、性的同意などのSRHRについて学びました。これからの人生を健やかに、そしてよりよい人間関係を気づいていくための様々なヒントが得られました。



關まり子氏
(ジョイセフ 国内事業グループ)

SOGIについての講義も行いました。高知県内のNPO団体「レインボー高知」の代表の宮田真氏をお招きし、SOGIの多様性についてお話をいただきました(詳細は10ページ参照ください)。



デートDV:知っておきたいこと!

9月17日(水)は、デートDVに関する講義で、講師はソーレの楠瀬由利子氏、中本珠希氏でした。デートDVの定義や発生頻度、暴力の種類、DVが繰り返されるサイクルについて学ぶとともに、なぜデートDVが起こるのかという背景要因一対等でない関係性、力と支配の構造、ジェンダー規範、暴力を容認する社会的風土について理解を深めました。

さらに、被害が継続した場合に及ぼす心理的・社会的影響や、被害者にも加害者にもならないための考え方、相談を受けた際の適切な対応、そしてより良い関係性の築き方についても取り上げられました。実施後には、受講者から「『暴力』という概念をこれまで過小評価していた自分に気づき、身近な問題として捉え直すことで、『個人の尊重』の意味をより深く理解できた」といった感想が寄せられました。また、他の講義内容と関連づけて考えることで理解が一層深まり、自身の経験や日常生活と結びつけて内省する機会となったことがうかがえました。



過労死防止に関する講演会

9月20日(土)は、過労死等防止対策推進法に基づく意識啓発事業として、厚生労働省の支援を受け、過労死に関する講演会を行いました。講師には、ご家族を亡くされた高橋幸美氏、ならびに「四国過労死等を考える家族の会」代表の久保直純氏にもご登壇いただき、体験を語っていただきました。「過労死」という言葉やその統計の背後には、かけがえのない命と、残された家族の物語があります。ご遺族の言葉を通じて過労死の実態を学び、個人の働き方から社会制度に至るまで、「過労死を防ぐために何ができるのか」を多角的に考える機会となりました。また講義では、働き手・家庭・職場における具体的なサインに気づく「ミクロの視点」と、長時間労働を容認する文化、評価制度、人員配置、法制度などを問い直す「マクロの視点」の双方について学びました。参加した学生は、過労死された方と同世代でもあり、遺族の深い悲しみや未来への願いに触れ、涙を流す姿も見られました。

また愛媛大学名誉教授の長井偉訓先生からは、社会福祉・経営学・法律の観点から、過労死を生み出す構造的要因と制度改善の方向性について解説いただきました。それら講演の後で、学生同士による意見交換を行い、サインに気づくことの重要性、文化や制度を変える主体としての意識、公務員や有名企業においても起こり得る問題であること、そして誰にでも過労自殺が起こり得るという認識など、多様な意見がでました。ご遺族の体験を直接聞くことで、「自分ごと」として過労死問題を捉える契機となった、との感想も多くありました。



講師 高橋 幸美氏



長井 偉訓 先生
(愛媛大学名誉教授)



令和7年度 高知大学女性研究者奨励賞の授賞式(2月12日)を行いました!

この賞は高知大学に所属する女性研究者の中から、優れた研究を展開している方を表彰する制度です。女性の研究意欲および挑戦力を高めるとともに、研究活躍の場を広げ、高知大学が女性研究者にとって魅力的な大学となることを目指します。通常は1名の方に授与されている賞ですが、今回は研究内容や今後の活躍をより期待し、2名の受賞が決まりました(副賞10万円)。今後のさらなるご活躍を応援しています!



酒井 麻依子 准教授
人文社会科学系教育学部門

受賞者の声

「研究課題名：マジョリティ性の現象学」

この度は、このような賞をいただき大変光栄に思います。私は哲学の現象学という分野で、社会的マイノリティおよびマジョリティの経験構造を研究しています。今年度より高知大学に着任し、すでに幾度か哲学を志す女子学生から相談を受ける機会がありました。哲学においては女性研究者の比率が割ほどと低く、地方ではなおさら可視性が限られる中で、研究と教育に携わる一人の研究者として存在すること自体が、後進にとって一つの具体的なケースとなりうると感じています。本賞を励みに、今後も研究・教育に取り組んでまいります。



安宅 香弥 助教
医療学系連携医学部門

受賞者の声

「研究課題名：マウス膀胱がんモデルにおける5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法による抗PD-L1療法の増強効果」

この度は女性研究者奨励賞という大変名誉ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。私は泌尿器科医、病理学の立場から、泌尿器癌を中心に腫瘍の代謝特性と免疫応答の関連について研究を行っています。本賞の受賞は、日々支えてくださる指導教員や共同研究者、そして研究と家庭を両立できる環境に恵まれたことの賜物と感じております。本受賞を励みに、今後も臨床に還元できる研究を継続していきたいと考えております。

国際学術論文投稿支援制度

女性研究者の研究力向上、および女性研究リーダー育成のために、外国語論文を執筆する女性研究者に投稿費または校閲費の補助を行う制度です(支援額：5万円)。

- 採択者：人文社会科学系教育学部門 酒井 麻依子 准教授

その他の支援事業

募集

男女共同参画推進室

力仕事サポーター

Physical Task Support

育児・介護、治療と業務・研究の両立を支援する施策として、随時支援を行います。

対象者
高知大学に勤務する大学教員、研究員、特別教員(特別研究員等含む)で、以下のいずれかに該当する方。
・大学内の労働力
・産後や高齢者の介護
・病気や怪我により日常生活動作が不自由で、支援を必要とする方

利用の目安時期
・1日あたり、原則上限3時間程度
・生活調整等に必要最低限の業務は、事前にご相談ください。

提出書類
・力仕事サポーター利用申請書
・力仕事サポーター-募集申込書(様式別紙を参照)

提出先 メールにて以下までにご連絡ください。
高知大学 男女共同参画推進室
E-Mail: sankaku@kocui.ac.jp

「力仕事サポーター」は性別に関わらずご利用可能です。育児や介護だけではなく、病気やケガなど治療中の方も対象です。校内での荷物運搬などを学生サポーターに手伝っていただけます。気軽にご利用ください。

休日入試等の一時託児

本学の教職員を対象に、休日の入試やオープンキャンパス等の実施日に一時託児を設置しています。詳しくは教職員グループウェアの募集案内をご確認ください。

年度	試験・イベント名	実施日	利用教員数	託児数	キャンパス	
令和7(2025)年度	大学院自己推薦(農林海洋)	7/5(土)	1	1	物部	
	大学院一般等(黒潮圏)	7/12(日)	1	1	物部	
	オープンキャンパス		8/2(土)	1	1	朝倉
			8/3(日)	1	1	朝倉
	学校推薦型I	11/15(土)	1	1	物部	
	大学院推薦入試(2次・農林海洋)	12/6(土)	1	1	物部	
	大学入学共通テスト	1/18(日)	1	1	朝倉	

令和8年1月末時点

育児介護休業制度のご案内 仕事とプライベートのハーモニー

本学の職員が活用できる制度についてわかりやすくまとめています。

制度を上手に活用して安心して育児・介護と仕事を両立してください。ウェブからもダウンロード可能です。印刷物をご希望の場合は、男女共同参画推進室までご連絡ください。



その他の支援制度

育児休業を取得された男性教員のリアルな声を伺いました!

高知大学では、子育てや育児などライフイベント中の研究者をサポートする制度があります。そのうちの一つが「ライフイベントからの復職支援制度」(支援額20万円)です。本制度のメインの対象者は女性研究者ですが、今年は、特例として育休を取得された男性研究者にも支援事業を拡大しました。



農林海洋科学部助教 **富田 幹次 先生**
(略歴)
北海道大学理学部卒業、北海道大学大学院環境科学院修了、博士(環境科学)。2022年より現職。森林野生生物研究室を主宰しており哺乳類を中心とした森林生物の生態を調べている。

「育休中に考えた研究と仕事、老後のこと」

2025年3月から10月にかけて育児休業を取得しました。現在は復職して育児に加えて授業やゼミ運営に追われる忙しい日々を送っています。7カ月の育休は本当にあつという間でした。想像を絶する育児の大変さや、妻と息子の3人でのんびりと過ごす(注釈:本当は寝不足で倒れていただけですが)幸せな時間を満喫できました。

息子の寝顔(写真参照)や笑顔、泣き顔や変顔でさえ、全てが愛おしくて、育児の疲れを吹き飛ばしてくれます。写真フォルダの容量が一杯になって課金するか悩んでいます。息子の誕生以来、おもつのメーカー決めや離乳食、保活まで、ありとあらゆることを妻と話し合いながら(時に喧嘩しながら)、手探りで育児を進めています。育休のおかげで、復帰後も2人で意見をぶつけ合いながら育児に励むことができているし、今後もこの関係が続くでしょう。

育休を通して研究者を引退した老後の不安が一つなくなりました。大学院時代から研究活動が常に生活の中心にあったため、それ以外の活動に専念するのは初めてでした。私は多趣味ですが、趣味の時間も頭の中ではいつも研究のことを考えている、いわゆる仕事人間でした。研究者は仕事人間が多いので、そうした自分に何の疑問も抱かずに生きてきました。育休を取る際、研究ができないストレスでどうにかなってしまうのではないかと心配していましたが、意外にも育児と家事が中心の生活に満足しており、育児と大学業務の板挟みで研究できない現在も幸せに過ごせています。

これからの人生の中で研究ができなくなるタイミングは必ず訪れます。定年退職前でも病気や怪我、介護、大学業務の都合などで研究を諦める時が来るかもしれません。そういう時に果たして自分は幸せでいられるか自信がありませんでした。31歳の私にとって時期尚早ですが、育休の経験を通して、研究者を辞めた後も幸せに生きていける確信を持つことができました。この育休期間は、息子の成長を妻と共に見守るかけがえのない思い出になっただけでなく、なぜか老後の不安解消にもつながりました。

保育園に入園したら息子と過ごす時間が減り寂しいですが、研究活動と家庭生活のバランスをとりながら幸せな人生を歩んでいこうと思います。

研究支援員制度と利用者の声

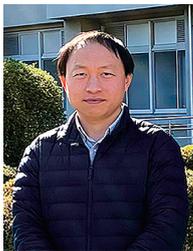
高知大学では、ライフイベント中の研究者が計画的に研究の遂行と生活時間の確保ができるように、「研究支援員制度」を設けており、性別問わずご利用いただけます。※条件や申請時期など詳しい情報はウェブやグループウェア等に掲載されますので、そちらをご参照ください。

研究者にインタビュー

3人の子育て中!

データサイエンスセンター特任助教 **李 冠軍 先生**

李先生は中国のご出身で2020年に神戸大学農学研究科で博士(学術)を取得後、同大学研究員を経て、2023年4月より高知大学データサイエンスセンターに着任。ご専門は農業経済学で、消費者嗜好や国際貿易を対象に、データ分析に基づく実証研究を行っていらっしゃいます。大学では「情報とデータリテラシー」「データサイエンス入門」等の授業を担当されています。



Q: 本制度を利用されて良かった点などを教えていただけますか?

A: 私の研究は多くのデータを扱うため、研究支援の学生の方にデータの入力や文献の整理、各種資料の確認作業を行ってもらえることで、負担が大幅に軽減されました。子どもが3人いますが、まだ乳幼児もおり、色々と子育てに物理的な時間もエネルギーもかかりますので、自宅で仕事はできない状態です。夜遅くまでの仕事もできない中で、学生さんに入力支援なども行ってもらえて、大変作業効率がよくなりました。そのおかげで自分は分析設計や結果解釈などの作業に集中できました。このようなサポートもあり、論文執筆も滞りなく進み、今年度は3本の論文投稿もできました。

研究支援員の学生さんの声

研究支援員として活動する学生さんの声
(人文社会科学部3年)

Q: 研究支援員として李先生の研究をサポートされていますが、普段のお仕事や感想について教えてくださいいただけますか?

A: 当初はデータを扱う業務に不安を感じていましたが、李先生に丁寧にご指導いただいたことで、分析手法への抵抗感がなくなりました。研究補助を通じて、データ分析や先行研究の調査など、研究がどのように進められているのかを具体的に学ぶことができ、研究職に対するイメージも明確になりました。

また、リモートワークや授業と授業の間の空コマを活用した勤務が可能で、生活状況に応じた柔軟な働き方ができる点も印象的でした。研究を継続するために、こうした支援制度や環境が重要な役割を果たしていることを実感しました。



学内でのイベント (buntan café) 紹介

男女共同参画推進室の愛称は「しあわせぶたん」です。自分も幸せにみんなも幸せに暮らす社会づくりを目指しています。推進室では、学生や教職員の皆さんが、安全で安心して勉強や仕事、研究に励むことができるように、様々な活動を行っています。ここでは、ランチタイムなどを利用して行うイベント「buntan café」を紹介します。

第5回 子育てとスポーツについて考えよう!



5月30日(金)に高知大学朝倉キャンパス・メディアの森1階のリフレッシュコーナーにて子ども(子育て)とスポーツに関するテーマで、東京未来大学子ども心理学部教授の藤後悦子先生、ならびに高知大学地域協働学部准教授の中村哲也先生にお話頂きました。

藤後先生はお子さんの子育て中に地域でのスポーツに関わるようになり、そこで監督やコーチなどの指導者と子どもの関係、あるいは親(保護者)と指導者との関係についてご研究されるようになりました。

研究の成果として、子どもたちがよりのびのびと育てていくための「スポーツ・ハラスメント」防止のための教材動画も製作し、発信されています。

中村先生は日本スポーツ史がご専門で、ご著書の『体罰と日本野球 歴史からの検証』やご自身の野球チームのコーチとしてのご経験、またお子さんの子育てから見えてくる保護者としての視点についてもお話くださいました。今回は、ご自身のお子さんの習い事や部活、地域スポーツとのかかわりに関心のある方が学内外からご参加くださいました。また保護者同士のコミュニケーションなど、日ごろから抱える疑問や課題などについても活発なディスカッションを行うことができました。



第6回 女性研究者支援事業・説明会

日本における男女共同参画では女性研究者の数が少ないことも課題となっています。高知大学でも女性研究者の比率がまだ少ないこともあり、採用などで工夫を行っています。また女性研究者に対する研究支援や奨励賞などがあり、本年度もそれら支援事業についての説明会をオンラインにて8月19日(火)に実施しました。

主なものとしては、研究のサポートをする研究支援員の制度、出産などのライフイベントからの復職を支援する制度、国際学術論文への投稿支援、そして女性研究者を奨励する賞などがあります(詳細は6ページ)。



第7回 みんなで学ぼう SRHR (性と生殖に関する健康と権利)

～自分の人生を自分で決めるカギ～

9月18日(木)に高知大学朝倉キャンパス・メディアの森1階のリフレッシュコーナーにて、国際 NGO ジョイスセフ (JOICFP) の關(せき)まり子氏に SRHR についてご発表頂きました。ジョイスセフで実施した「性と恋愛 意識調査 2025」の調査結果の報告や男性にも活用いただける冊子 (Men's SRHR Mini Book) の説明がありました。SRHR というと女性に関する情報が多いのですが、今回は男性のジェンダーについて考えるよい機会となりました。

またジョイスセフでは、3月8日の国際女性デーに「ホワイトリボン・ラン」のイベントを実施しています。これは「すべての女性が健康で自分らしく生きられる世界」を目指し、「走ろう。自分のために。誰かのために。」というスローガンを掲げ、実際の拠点やバーチャル (インターネット) でつながるイベントで、多くの方に SRHR を知ってもらおう活動です。

今回のイベントは、学内の教職員の方、学外のメディアの方を含め、10名の参加がありました。ご自身のお子さんにも聞かせたいという保護者の方や、もっと学生にも知ってもらえたら、という声もありました。性の健康について、男女ともに様々な世代で話していく活動を今後も実施していきたいと思います。



令和7年度 女性に対する暴力をなくす運動(パープルリボン)の活動

毎年11月12日～25日は、内閣府の定めるパープルリボン週間であり、今年のキャッチフレーズは、「DVや性暴力に気づいたら 相談されたら。そのとき、私たちにもできることがある」でした。私たちにはこのような暴力を防ぐために何ができるでしょうか？
今年度は高知大学全体での取組として、各キャンパスで展示、及びイベントを開催しました。



内閣府 男女共同参画局のポスター

本年度は、朝倉キャンパスと岡豊キャンパスの図書館、及び地域協働学部にて、パープルリボンや関連図書やポスター等の展示を行いました。クリスマス用のツリーに紫の電飾を飾り、この活動に賛同いただける方に紫のリボンを飾っていただきました。ジェンダーや男女共同参画の書籍を普段はあまり手に取る機会がない方にも、目を通して頂けたのではないのでしょうか。ご参加・ご協力、ありがとうございました！



図書館での展示の様子



第8回 buntan café を実施しました

11月21日(金)に物部キャンパスでは初めてとなるパープルリボンのイベントを行いました。「コミュニケーションのスキルアップ講座：伝える・聴く・断る」と題して、リアライズYOKOHAMA代表の橋本明子氏にお話をいただきました。コミュニケーションスキルアップを目指して、性的同意などの重要性について、相手との距離について考える「サークルズプログラム」を行いました。この性の健康教育は誰もが被害者にも加害者にならないための教育です。当日は学生や教職員(男女問わず)の方々にお集り頂き、質問なども活発に行われ、楽しく学べる時間となりました。



セルフディフェンス「Wen-Do」を開催しました

11月22日(土)に朝倉キャンパスの希望創発センターにて、セルフディフェンスの「Wen-Do」のワークショップを実施しました(講師：橋本明子氏)。Wen-Doとは、1972年にカナダのトロントで開発された、女性のためのセルフディフェンス(自己防衛)プログラムで、小学生から高齢者まで学べます。性被害を受けると身体だけではなく、心も大きく傷つきます。少しでもそのような性被害から逃れることができるように開発されました。

学生、教職員が、実際の体術とともに、人間関係のあり方も含めて、未然に暴力から身を守る方法も学習しました。大きな声を出すこと、相手を威嚇して逃げることなど、比較的容易にできる方法も多く、明るく楽しく学ぶことができました。



月経(生理)に関する取り組みについて

男女共同参画推進室では、学内のウェルビーイング環境整備の一環として、女性のライフステージに関する取組を実施しています。今回は学内での月経に関する様々な取組を紹介します。

生理用ナプキンの配布スタート!

大学内に無料で生理用ナプキンが置いてあることをご存じですか? 2025年5月から朝倉キャンパスの学生会館に生理用品無償提供ディスペンサー(MeW)を設置しました。この取組は、地域協働学部での授業の一環として行われた活動を、学生からの要望を当室が受けて実施をしたものです(写真右)。様々な国で生理用ナプキンが「トイレトペーパー」並みにトイレに設置される法律や取り組みが行われています。



また推進室ではこの取組を大学全体(岡豊キャンパス、物部キャンパス)にも広げました。また、これまで防災備品として入っていなかった生理用品も今年度より、備蓄されることになりました。関係部局の方々のご協力に感謝いたします。



5月から実施しているウェブアンケートからの回答では、学生の方から「突然生理になった時に利用できて良かった」というお声を多く頂きました。また「すべてのトイレに置いてほしい」「共通教育棟にもあったら」という意見もありました。予算や手続きなども含め、今後検討していきたいと思えます。

こんなところに置いています

- 朝倉キャンパス
 - ・学生会館1階女子トイレ・多目的トイレ
 - ・地域協働学部棟1階女子トイレ
 - ・理工学部2号館1階女子トイレ
 - ・人文社会科学部棟1階女子トイレ
 - ・教育学部1号館1階女子トイレ
- 物部キャンパス
 - ・講義棟1階女子トイレ
- 岡豊キャンパス
 - ・学生会館1階女子トイレ



岡豊キャンパスでの設置の様子

月経について考えるワークショップを開催しました!

学内で生理用ナプキン設置をきっかけに、男女ともに学べるように「性別を問わず、自分のみんなに。月経と健康について考えるワークショップ」を10月28日(金)に人文社会科学部1階交流ラウンジにて開催しました。

本イベントでは、日本カルミック㈱の山入端大氏より、なぜ月経がタブー視されてきたのか、月経対処の歴史等についてお話頂きました。その後に生理に関するグッズなどを使つてのリアル体験ワークを行いました。教職員・学生や学外の方も含め、15名が男女ともに月経についてディスカッションをしました。

女性にとっては「生理の壁」と呼ばれるようにPMS(月経前症候群)やひどい月経痛などによって、勉強やサークル活動、仕事への影響があることもわかりました。また女性の間でも月経痛の痛みには個人差があることや、生理休暇、また男性も体調不良時に休めるような休暇があつては

という意見も出ました。健康について、男女が一緒に話せるよい機会となりました。



サニッコ・トライアルの実施

月経に関する取り組みの一つとして、日本カルミック㈱のサニッコ(サニタリー・ボックス)のトライアル設置(10月~12月)を行いました。サニッコは、タッチレスであることや、中が見えない構造、そして特殊なビニール袋を使用することで抗菌・消臭ができるボックスです。

トライアル中にアンケートを行い約70名の方に協力頂きました。回答者の92%の方が、「大学での生活や仕事において、生理が影響を及ぼしている」ということや76%の方が「生理中の心身の負担を軽減するためにトイレでのサポートを必要」と感じていること、生理用品の無償配布の取組について88%の方に支持されていることがわかりました。これら結果を踏まえて今後の活動を検討していきます。



ウェルビーイングな大学プロジェクト

12月20日(土)、高知大学朝倉キャンパス陸上競技場において、教職員運動会が開催されました。当日は天候にも恵まれ、途中、強い日差しに上着を脱ぐ場面も見られる中、無事に競技が実施されました。学長および4名の理事をそれぞれチームリーダーとする5チームに、総勢157名の教職員が分かれ、和気あいあいとした雰囲気の中で競技に臨みました。普段は接点の少ない教職員同士が会話を交わしながら、協力してミッションに取り組む、貴重な交流の機会となりました。実況中継を担当する職員や、全員リレーで200メートルと100メートルの両方に手を挙げて挑戦する職員、高校時代の体育会のTシャツを着用して参加する職員の姿も見られました。

また、備品や機材の扱いに的確な指示を出す医療検査系の職員、準備運動の手本を務める職員、競技中の判定を冷静に下す人事課長など、それぞれの個性や専門性が随所で発揮されていました。改めて、多様な能力と人材が本学には集まっていることを実感させられる場面でした。

全13競技という比較的ハードな内容で、途中には「しんどい」「最後のリレーまで体力がもたない」といった声も聞かれましたが、大きなけがもなく、無事に全日程を終えることができました。学長による2026年の新年の決意表明では、本運動会を恒例行事とする方針が示されました。今後、こうした取り組みを通じて、大学全体を少しずつ男女共同参画の視点からも彩っていかねばと考えています。

※本イベントは、男女共同参画推進室「ウェルビーイング研究環境実現イニシアティブ(学長裁量経費)」より、一部経費の支援を受けて実施されました。



高知大学女性研究者比率の推移

高知大学では、国立大学法人高知大学第4期中期目標・中期計画(令和4-9年度)において、「バランスの取れた年齢構成に留意しつつ、教員の多様性を高めるために、若手教員、外国人教員及び女性教員を積極的に採用する。特に新規採用者のうち、原則6割は若手教員、原則3割は女性教員を採用する。」という目標を掲げています。

現在の女性教員の割合(2025年5月1日時点)は、教授12.3%、准教授21.9%、講師25.8%、助教36.6%です。男女共同参画推進室では、引き続き、女性研究者の研究と生活の両立支援、女性のリーダー育成などを行っています。



男女共同参画推進室では毎年「高知で活躍する女性ロールモデル集」を作成しています。高知県内の様々な女性たちの活躍をご紹介します。オンラインでもご覧いただけます。ぜひご覧ください。

第16回中国四国男女共同参画シンポジウムが開催されました

12月1日(月)に「第16回中国四国男女共同参画シンポジウム」(兼JST補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(R2-7年)の総括イベント)がKDDI維新ホール(山口県山口市)にて開催されました。高知大学からは本件担当の堀見理事、推進室の宮地特任講師が参加をしました。

本事業は大学と地域の企業との連携が特徴的で、第一部では、連携機関として山口東京理科大学、宇部工業高専、UBE(株)、(株)トクヤマの関係者の方々が登壇され、人口流出が進む地方都市においてダイバーシティの視点が重要かについての議論が行われました。また第二部では、「地方大学における女性活躍促進の難しさとして意義、その対策について」として岡山大学、島根大学、愛媛大学、香川大学、山口大学のダイバーシティ担当部署の副学長らが登壇し、各大学の取組や振り返りが行われました。

また本イベントに先立って、午前中は中国・四国の大学の推進連携会議も実施され、各大学からの様々な質問(「男性の育休促進」「テレワーク推進」「女性教員限定公募(離職防止策)」「出張の際の子どもの帯同」「LGBTs支援のガイドライン」)についての回答や情報交換も行われました。高知大学も、引き続き他大学との交流も深めながら、様々な活動を実施していく予定です。



男女共同参画推進室 しあわせぶたん Vol.16 発行日/令和8年3月

国立大学法人 高知大学 地域協働学部棟3階
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号

TEL : 088 - 888 - 8022 FAX : 088 - 888 - 8023 E-mail : sankaku@kochi-u.ac.jp